

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市在宅医療・介護連携推進会議 第10回連携体制等に関する部会		
事務局 (担当課)	在宅医療・介護連携支援センター 電話042-769-9250 (直通) 医療政策課 電話042-769-9230 (直通)		
開催日時	令和6年1月31日 (水) 19時30分～20時45分		
開催場所	Web開催 及び ウェルネスさがみはら 3階 集団指導室		
出席者	委員	12人 (別紙のとおり)	
	その他	0人 (別紙のとおり)	
	事務局	10人 (在宅医療・介護連携支援センター所長、外9人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	<p>1 開 会</p> <p>・委員の変更について</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 部会長の選出について</p> <p>(2) 在宅医療・介護連携ツール (支え手帳、ICT ツール) について</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 地域医療連携業務関係職員合同会議について</p> <p>(2) 在宅医療・介護連携事例等発表会について</p> <p>(3) 在宅医療・介護連携市民講演会について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>		

議 事 の 要 旨

1 開 会

- ・委員の変更について

相模原市医師会 佐藤委員の退任に伴い、梅澤氏が委員に加わった旨、事務局より説明した。

2 議 題

(1) 部会長の選出について

委員の互選により、梅澤委員を部会長に選出した。

(2) 在宅医療・介護連携ツール（支え手帳、ICT ツール）について

事務局より資料に基づき、説明した。

みどり北をつなぐ会（黒沢氏、和田氏、村口氏）より、MCS（メディカルケアステーション）の活用状況やメリット等について説明を受けた。

（梅澤部会長） P5の「今までかかったことのある病気」欄について、治療していないのは、中断なのか終了なのか、中断の判断も利用者からわかりづらく、いつから治療しているかもわからないことが多いため、治療している病気にマルをつけてもらえれば十分ではないか。また、既往歴は大事であり、以前治療していた病気等がわかるとよい。

P10「みんなのやりとり帳」について、医療機関等に複数かかっている場合もあり、「〇〇様へ」のスペースを広くした方がよい。

（澤野委員） 介護の観点から、P6のサービスについて、通所でもリハがあり、訪問でも看護があり、サービスによっては4つでは収まらない方もいる。1週間の予定表は見開きで書いていかないと書ききれない方がおり、偏りがでると思う。

（梅澤部会長） 受診が曜日で書いてあるが、一般的な診療は月1回か2か月に1回なので、月の予定でなければ書けないこともある。

（斉藤委員） わたしの連絡帳の内容を、ICTで網羅できるのか。

（事務局） わたしの連絡帳とICTで共有する情報が全く同じ内容にはならない。しばらくの間はICTと紙媒体を平行して進めていきたいと考えている。

（黒沢氏） 選択肢があるということ。高齢の方は紙の方が馴染みがある方もいる。ご家族はICTが良い場合もある。状況に応じて、個別に利用するツールを考えていくことができると思う。

(澤野委員) MCSはセキュリティもしっかりしている。相模原地域の各機関にも情報を流し、セキュリティに課題のあるツール等を使っているような事業所があれば切り替えていくような啓発をできるとよいのではないか。

(事務局) MCSをどのように利用していくのか、個人情報の取り扱いも含め一定の条件を定める予定である。

(比留間委員) 支え手帳を改良した形でわたしの連絡帳に移行する形だと、今まで支え手帳を使っていた方々が、わたしの連絡帳の必要なページを足していく形でよいのか、はじめから書き直すのか。

(事務局) これまでモデル事業で支え手帳を利用して、支え手帳の方が使いやすいということであれば、それを補足する形で、わたしの連絡帳のオプションを利用していくなどの運用は可能である。2穴で綴じられる形にする予定である。

(比留間委員) MCSについて、医療法人の場合はセキュリティ面で心配なため法人のPCには導入しないという話もある。活用(案)では、市としてMCSの活用を考えているという場合、法人宛てにお知らせを出していただくことは可能か。

(事務局) 今後、市としてはMCSを「推奨」していきたいと考えており、説明会等を開催予定である。その中で、どのように活用していくのかお伝えすることはできると考えており、また、市として推奨している旨を各法人にお知らせすることは可能だが、最終的な決定権は各法人にあるため、可能な範囲での活用を検討していただきたい。

(水上委員) MCSを既に使用しているところもある。経営者がよしとさえ言えば決まるが、自身で決定できないこともあると思う。市が推奨していく中で、個人情報の管理はあくまで各事業所の責任になる。市からの今後の段取り、説明を経て使っていくかどうかを各事業所に委ねていくことになると思う。MCSの活用はコロナの自宅療養支援センターを立ち上げた際にも、自身も各訪看にMCSに入っていたが、医師会の事務局等含め、情報共有していた。個人情報の管理は危惧されているところだが、今後の市の予定を教えてください。

(事務局) 令和6年度中を考えている。ルールを決めることや、庁内的な合意も取っていくことになるため、少なくとも7月以降の開始になると見込んでいる。

(水上委員) 最終的には市民を加えていけるツールは非常に有用。個人情報の観点から、まずは関連職種がどのように情報共有を図っていくか。そういった事例報告等を通して、出来る限り市民のための医療・介護の情報共有を図れるツールとして、市がバックアップしていくようなツールになるとよい。

わたしの連絡帳については、支え手帳モデル事業の延長となるが、全市展開するとき、どこからスタートするのか。診療所なのか、介護事業所なのか周知していただければと思う。

(事務局) 利用者を中心にと考えているが、関係する医師会等の団体には事前に十分な説明を行い、利用のご協力をいただければと考えている。

わたしの連絡帳については、修正意見があれば2月中に事務局へご連絡いただきたい。

(荒川委員) M C S を利用しているが、利用者ご家族は参加していない。医療・介護スタッフの情報共有で使っている。利用者が入った場合、いつでも質問すれば答えてくれるといったことを期待されると、24時間答えられる状況にはしていないため、他の市町村はどのような形でやってるか、今後説明会を実施するのであれば是非聞きたい。

(和田氏) 以前居宅のCMであった時、ご家族とも情報共有していたが、必ず日勤帯の時間帯でしか返事はしないこととし、緊急時の連絡は電話連絡としていた。緊急の要件ではM C S を利用しない。事前に利用者へその旨を伝えておくことで、24時間気にする必要はない。

(荒川委員) 24時間の契約を全員としていないため、急ぎの連絡をM C S でされた場合、どうして見ていないのかといった問題が発生する可能性が有ると、スタッフが就業の関係で24時間当番制でないこともあるため、色々なパターンを聞いていかないといけないと感じた。

(事務局) 利用者を含めての活用においては、利用者との同意を取る中で、連絡の時間帯や共有する個人情報の範囲等について、個々のグループの中でルールを決めていただきたいと思いますと考えている。

(和田氏) ケアマネが入っている場合、ケアマネ主導での活用になってくると思う。その場合は、ケアマネから緊急時の対応等を含めて利用者に伝えていると思われる。

(澤田委員) 緊急時の対応は利用者に限ったことではなく、医療・介護従事者も至急の要件をMC Sに書き込むことがある。利用については最低限のマナーの中で利用していく必要があり、そういった方がいたら、緊急時はMC Sではなく他の方法で連絡するなど、説明していく必要がある。今あるものをどうやって上手く使うかを考えていくべきであり、MC Sは業務の効率化においてメリットの方が圧倒的に多い。

(斉藤委員) MC Sは共有する相手を選べるのか。

(和田氏) 患者側のグループと、事業所側のグループに分けて情報共有が可能である。

(事務局) 全国的にMC Sを利用している中で、患者を含めて利用している事例はまだ少ない。一番の目的としては、医療・介護事業者の連携ツールとして使っていただくことである。そこから、利用者を含めた情報共有の進め方については検討していく必要があると考えている。

3 報告事項

(1) 地域医療連携業務関係職員合同会議について

廣瀬委員より、会議結果について説明した。

(廣瀬委員) コロナ禍で救急が破綻する事例が繰り返されたことを契機に、病院協会で、病院の後方連携の話し合いをしている。

多くは高齢者の退院調整が難しく、受け入れ困難となる事例である。高齢者救急において後方連携を整理するための話し合いを続けている中で、委員の皆様をお願いしたい。

後方連携においては、患者、ご家族の理解が大事である。治療するフェーズと在宅に繋ぐフェーズを分けなければいけない。市全体でやっていくためには、皆様から利用者の方にも日常的に啓蒙していただき、救急を守るためには、治療が終わったら後方病院に移り、在宅又は施設に戻る調整をしていくという流れを説明してほしい。また、救急医療に関しても希望通りの病院にはいけないことが多いため、そのことをご理解をいただきたい。何よりも市民の御理解が一番大事である。日頃のご協力をお願いしたい。

(2) 在宅医療・介護連携事例等発表会について

事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

(3) 在宅医療・介護連携市民講演会について

事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

3 その他

・全体の総括

(大塚副会長) これまで積み上げてきた支え手帳が全市展開となることは、会の大きな成果であると思う。MCSの話もあったが、施設やクリニックの先生との連携の中で利用することも多くあり、便利なツールではあるが、高齢者にとっては使いづらさもあるため、支え手帳が続いていく意義は大きい。

高齢者救急の情報共有の手段としても、支え手帳やMCSの活用も生かしていけるとよい。問題解決の糸口になるのではないかと感じた。

5 閉会

※原則、審議と関係のない発言、単純な言い間違いなどを除き、発言者及び発言内容を記載する。

(別紙)

令和5年度 相模原市在宅医療・介護連携推進会議
第10回 連携体制等に関する部会 委員出欠席名簿

No.	氏名	所属等	備考	出欠席
/	大塚 小百合	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	推進会議 副会長	出席

No.	氏名	所属等	備考	出欠席
1	梅澤 慎一	一般社団法人相模原市医師会	部会長	出席
2	水上 潤哉	一般社団法人相模原市医師会		出席
3	廣瀬 憲一	公益社団法人相模原市病院協会		出席
4	田中 雄一郎	公益社団法人相模原市歯科医師会		欠席
5	澤田 弘之	公益社団法人相模原市薬剤師会		出席
6	阿部 徳子	公益社団法人神奈川県看護協会相模原支部		出席
7	比留間 由美子	相模原市訪問看護ステーション管理者会		出席
8	斉藤 正和	相模原市医療ソーシャルワーカーの会		出席
9	土田 陽子	さがみはら介護支援専門員の会		出席
10	日高 明夫	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
11	澤野 将文	相模原市介護老人保健施設協議会	職務代理	出席
12	矢口 君代	地域包括支援センター		出席
13	荒川 雅子	一般社団法人相模原市医師会 (訪問看護ステーション)		出席